

# 土地の古者の三河地震被災体験談から学ぶ、 地震・災害のしくみと防災のあり方



歴史災害教訓伝達プロジェクト  
～1944東南海・1945三河地震

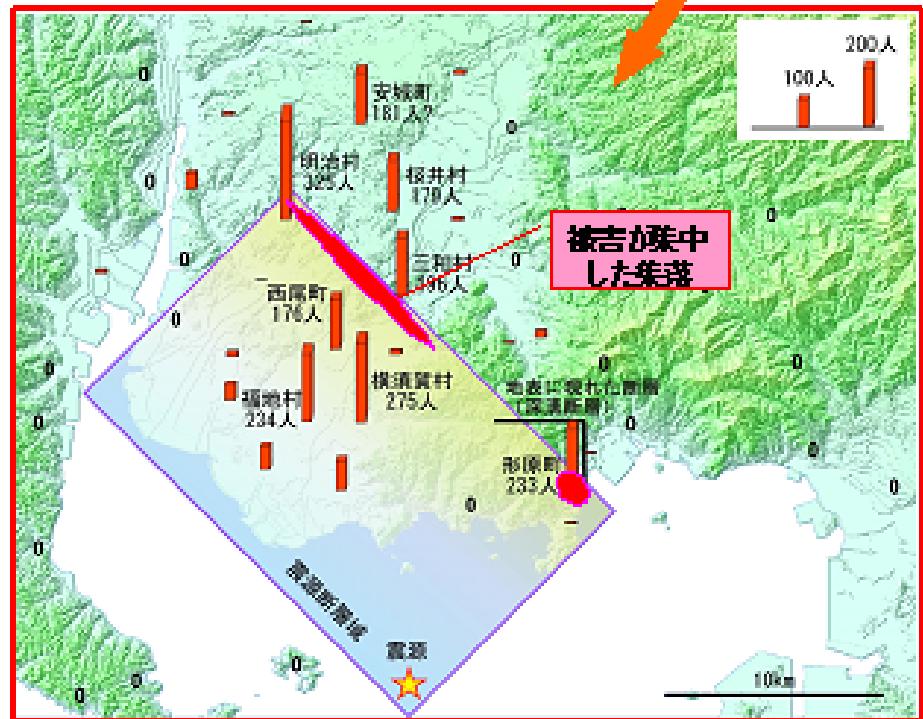
# 地域の被災体験を視覚化し、住民間で共有する試み

## ～地域の災害イメージを豊かにすることで、防災へ！

### 1945年三河地震

・死者2306人

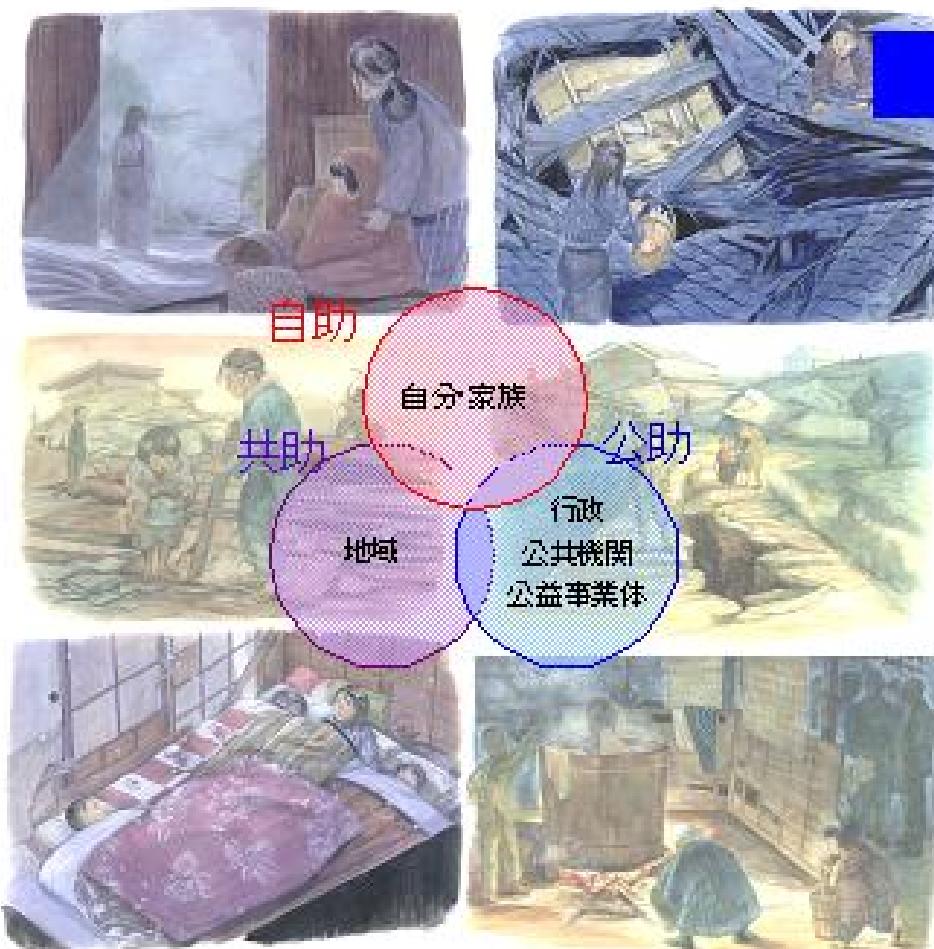
・第2次世界大戦末期の報道管制下において、具体的な被害報道が制限された。写真も少ない。



The collage includes:

- A blue-bordered box with the text "再度の震災も何ぞ 試練に図る特攻魂" (What if another earthquake occurs? Trial by fire spirit of special attack).
- A black and white photograph of a destroyed building.
- A black and white photograph of a debris-strewn road.
- A grid of 24 small portraits of elderly people, with a green box below stating "三河地震インタビューをした方々とその被災場所" (Interviewees of the Mikawa Earthquake and their disaster sites) and "24件 (2022年4月現在)" (24 cases (as of April 2022)).
- A smaller map of the Mikawa region with red dots indicating interview locations.

# 地域の災害体験を子どもたちに継承して、 子どもたちの防災マインドを育てる



視覚化された地域の被災体験を、次世代を担う子どもたちに伝えていく

## ① 教育プログラム



## ② 教材



特徴の異なる3つの小学校(昔からの地域・新旧混合地域・外国人地域)で実践

# 2つのプログラムの実践（1）

## 1. 2時間で学べるプログラム（複数クラスの児童向け）

1時間目

### 1. 地震って何？



動画や写真を使って地震被害、特に過去の災害での地域被害について説明をする。

### 2. 地震が起こると何が大変なの？



被災者の体験談を、司会者との対談形式によって、話を聞く。

2時間目

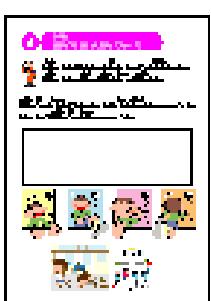
### 3. さまざまな防災の知恵を体験しよう！



班にわかれで3つの屋台をまわりながら防災の知恵を学ぶ

後日（総合的学習の時間）

### 4. 復習しよう！



体験談を復習し知識の定着化を図る

→ 桜林小学校（新旧住宅地混在）・祥南小学校（ブラジル人家族等）で実施

# 2つのプログラムの実践（2）

## 2. 1年間にわたるプログラム（1クラスの児童を対象）

### 2. 地震ってなに？



動画や画像を使って地震と被害について説明をしてくれました。

### 3. 地震が起きると何が大変なの？



被災者のお話を聞きました。司会の心理学の先生が、体験談の絵をもとに質問しました。

### 4. 地震について復習しよう



被災者の方の話をもとに作った手作りドリルを答えながら、お話をふりかえりました。

### 5. みんなで答えあわせをしよう



みんなで答えあわせをしました。「地震だ！」という合図で机の下にもぐりました。

7月11日の2時間授業（キックオフ）をきっかけに、1年間の試みがはじまった

## 総合的な学習「防災学習」年間プログラムを構想する

## ①問題を見つける

## 自分の問題としてとらえる



鈔本歌特九首其六八

このかみは地獄をついてぐるに遊んでいたのであってアラヤと  
うござりまへぬ。永遠は生きておひき大ききね地獄は体験して  
しません。でも二人の娘ともう隠して地獄の事が何より  
りも恐ることがござりました。地獄がどうにもこもれ、お  
城本山が年を大きね地獄が来ていました。ほ  
のア、うるさくもぐりません。私は地獄  
が来ててもよいから、平穡ををして向むおま  
いの小説の中に入れて自分の聲を吹きたり地  
獄の事が教えておきたいから身上にあります  
うござります。

## ②追究する

## 問題解決のための調べ学習

## 「地域」学習



宇賀朱尾町

- ・余震で田んぼを耕す牛が立てなきって人の手でやった
- ・壊れた家もあり、神社では灯ろう作こまつが倒れた
- ・家が全壊して、外にわい小屋を造って生活した
- ・地震から奥尻島に入れず後のものにしらわがわいた

### ③表現する

## まとめ作り 学芸会の劇で の再現・発信

地図への対応 中級

大きな地震での直接死の死因は、8割以上が震度の強さによる死因である。  
家具を固定する。  
1. ベース脚  
上部重りで床面に付ける。床面の振動を吸収する。  
2. 壁面固定  
壁面に直接固定する。床面の振動を吸収する。



## ④自己を考える

## 行動目標をもつ



## 三河地震被災体験談からの想い

# 年間プログラムの実現にむけて（例）

1 単位時間の授業を積み上げていく（帰納的）

## 1時間の指導案作成

目標

### ①学習課題の設定

「家に一人でいる時に地震がきたらどうするか」

### ②かかわり合う場の設定

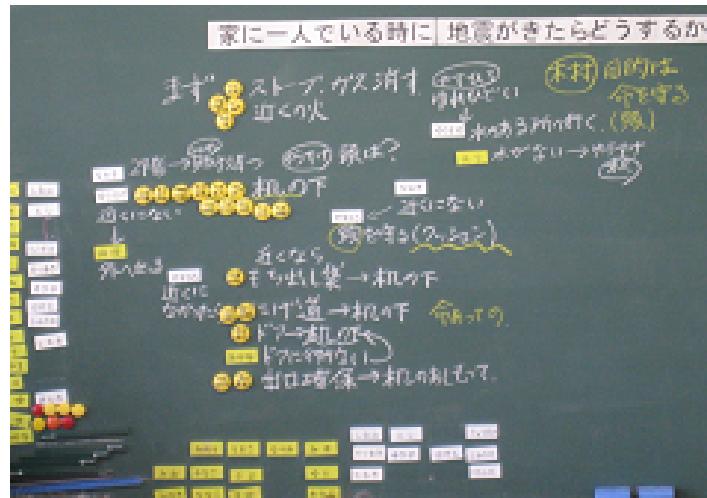
自分が調べたこと考えたことと、友だちのもっているものとのすり合わせ

### ③自己に返す場の設定

具体的な行動がわかる

- ・机の下にもぐる
- ・出口確保
- ・頭と足を守る

評価



## 第6学年 構成的学習指導用紙

平成26年12月22日(火) 8:50~9:50  
指導者 岩 月 佐由子  
実 施 指導

### 1. 学年名　指導にあたる人

### 2. 学年目標

- ・知識や経験を積むことで、他者への関心があるも、自分の手の問題を抱えていることがあります。  
(問題を抱く力)
- ・自分の問題を解決するため、質問で調べたり、調査活動をしたり、他者の意見に耳を傾ける力
- ・進歩したことを喜ぶも、みんなの問題の経験をすることができるように気を遣し、これが他の会話を豊富に広げる要素であることを理解することができる。  
(問題を抱く力)
- ・單元を通して、これまで経てた問題を自分ができる。

### 3. 単元について

#### (1) 先生の実際について

3年生からの就業力を学習する課題として、本年度は就業時の実際の経験、就業指導の実施例と就業時の行動の仕方を学習してきていた。前の就業実習では、就業指導が就業から就業指導までの手順の学習をしていている。自分が何を抱いてしまったかと問題が就業への意図は書いていなかった。

今夏、卒業の準備として、名古屋大学実習時を中心に理と道と経験することが目的になり、がんばりました。その他の、就業を経験して、就業する意識をしていている。また就業経験では、みんなが就業を抱いて、自分たちの就業が就業の意図とされる自分が抱いていくかを明確にする。

#### (2) 現実感想(現実)

### 4. 本時の学習指導(タブ、タブ/4.2)

#### (1) 本時の目標

3.7 / 4.2 (4回目)

- ・専門家の話を聞くことにより、経験を解説し就業時の人の心の変遷を理解を加深する。
- 3.8 / 4.2 (5回目)
  - ・就業の問題を設定し、その場の行動について、これまで学習したことから経験を読みひきつけて考えて話し合うことにより、これからの方の就業の具体的な行動を起こすきっかけができるようになります。  
(自己を考える力)

#### (2) 学習指導過程(4回目)

##### 学習活動

##### 教科の文題

###### 1. 本時の学習目標を確認する。

**大きな実験が就業力を育む。就業も就業となるのかどうか?**

###### ・失敗者」とは

- 「大きな実験が起ると、悪いストレスを感じる。そのため、頭が真っ白になり、あわてて頭でもさなかった問題を研究することで理解しやすくなる。」
- ・最近起きた地震の具体的なデータを示すこと、「失敗者」はそれでも運営される精神状態であることを知る者。
- ・失敗者を就業の具体的なデータを示すこと、「失敗者」はそれとも運営される精神状態であることを知る者。

###### ・この問題の特徴は

- ・なぜ失敗をしてしまうか
- ・失敗者を乗り切るために何
- ・失敗者をなくすには
- ・実際に失敗が起きたら

###### 2. 聞き取りをする。

- ・わかったこと
- ・感想
- ・気がしたいこと

###### (3) 許可

- ・専門家の話を聞くことにより、経験を解説し就業時の人の心の変遷や行動を深めることができたが、結果中の様子の聞き取りから判断する。

#### (4) 学習指導過程(5回目)

##### 学習活動

##### 教科の文題

###### 1. 本時の学習問題を確認する。

**誰に一人でいる時に地図がきたらどうするか**

- ・机の下にもぐる
- ・机はある? 会場ある? ない時は? なぜ?
- ・火を消してから
- ・どういう時に? もぐる前に?

###### 2. 眼鏡を聞く

- ・一晩に? 朝起きたら?
- ・寝もし出し音を静かに

すぐに帰てる? どこに置いておく?

###### 3. 眼鏡を置ける?

- ・おまかせたら外に出る
- ・ドアは開く? 階下階ではがしました?

ぬれがたる? 階下階にはどんな物が? 出られない時は哪些?

###### 4. 眼鏡を落す?

- ・何は迷ひを状態?
- ・どこに向かう?
- ・医師?

###### 2. 眼鏡を買おう。

- ・オナニカルと買った眼鏡への慣れをまとめる。(眼鏡に慣れたこと)
- ・眼鏡の行動を記入を終る。
- ・眼鏡の感想をまとめる。

###### (5) 許可

- ・眼鏡の構造を確認し、その構造の運動について、これまで学習したことから視野が狭と結びつけて考え抜き合うことにより、これまでの眼鏡の具体的な行動を起こすきっかけができたか。見直す限り改めて判断する。

# みんなに危険な場所を気づいてほしい (中根可南子)

# 避難所での生活

中根 町南子

自転車での生活は、アライバシーも運んでくれず、不自由なことがよくあります。草田生の車で、いきなりアライバシーを運んでくれます。体育館が近くても、高齢人口が多いため、車は見えて停めておらず、自転車に強い人が多いおまけに、自転車の運転で危険な事故が多発する。車あくまで自転車を運転する者のためのもので、運転して運んでいます。

アライバシーは、アライバシーに、危険な人に日本に導入や使用車の中では、運転するため、エコバーサリーバイクを運転するようになりました。

アライバシーを運転するには、アライバシーとアライバシー



6年生が作成→町内会でチェック→町内に配布

## 志賀小地震防災マップ

第10章

早くで安全なところ

危険があるところ

支那に於て立つる

防火牆 - 本



安全な所・広い所



後にたつ



公共の場所



## ● 防火施設・水のある所





# 地震に負けない！（11月15日志貴小学校学芸会）



劇は被災姉妹の想起  
のかたちで進行する



## 4場面：三河地震の発生

ナレーター：昭和20年1月13日 午前3時30分 三河地震が発生しました。おばあちゃんといとこは震度、わたしたちは震度の座敷に寝ていました。

効果音：ゴー、ドンドンドンドンガーン、カッシャーン

父：外へ出なあわん！

祖母：みんな大丈夫かい。

奥代：ほこりがすごくて、目が痛い。

敏枝：ほこりがすごくて、息ができない。

母：壁土のほこりがすごいねえ。みんな口にあてて、なるべく吸い込まないようにね。

\*あたりから、生き埋めになった人の「助けて、助けて」という声が聞こえてくる。

\*牛の「ウーウー」といううなり声が聞こえてくる。

妹：ほこりでよく見えないけど、「助けて、助けて」って聞こえるよ。  
弟：怖いよう。

妹：あれは牛？苦しそうにうなっているよ。

いとこ：「声が聞こえなくなっちゃったよ。死んじゃったのかなあ。」

父：助けてやりたいが、こっちもそれどころじゃない。

母：夜中の3時で、火を使っていないくてよかったよ。

祖母：もし、火を使っている時だったら、木造だし、道は狭いし、道もガリキで埋っているしねえ。全部燃えてしまうところだったよ。

\*裏の家の「ガシャーン」といって転ぶ。

裏の家のおばさん：敏枝さん、火がでてきただけで助けて！

敏枝：おばさん、大丈夫。（バケツで水をかける）

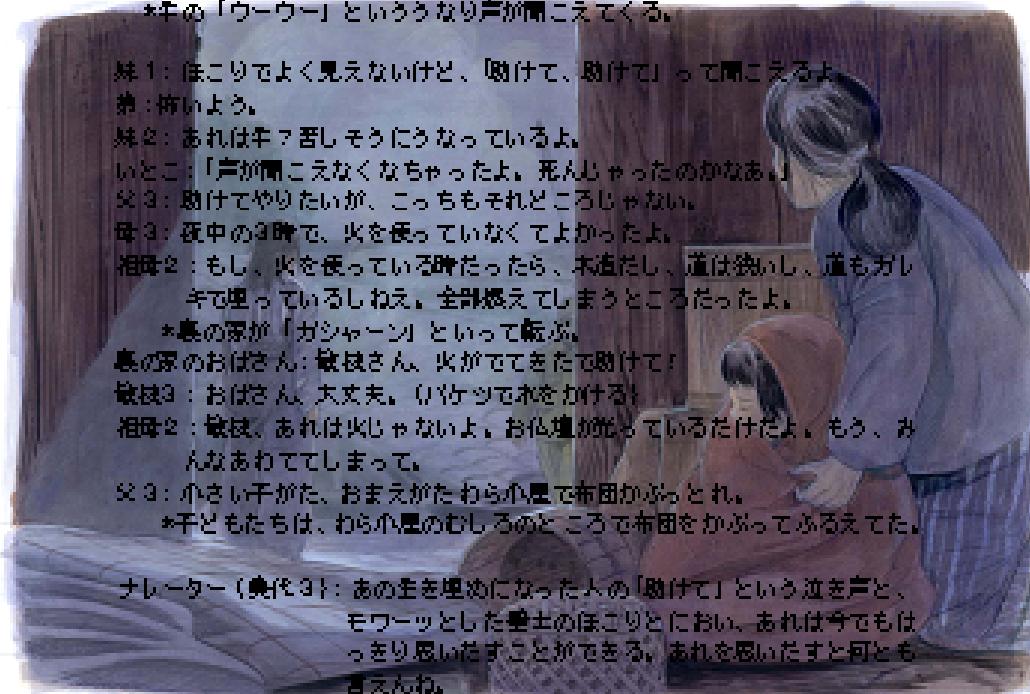
祖母：敏枝、あれは火じゃないよ。お仏壇が光っているだけだよ。もう、みんなあわててしまって。

父：小さい子がた、おまえがたわら小屋で布団かぶっとれ。

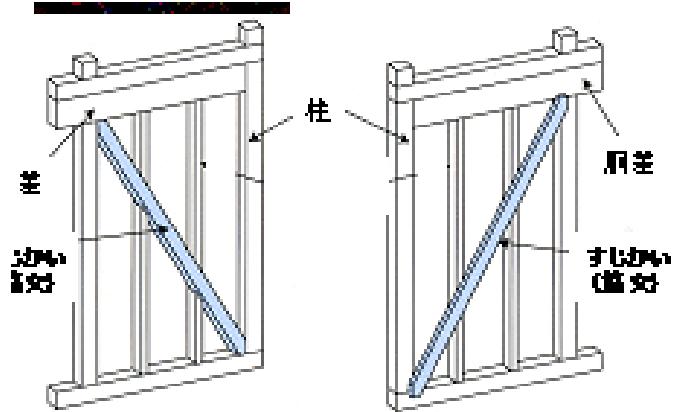
\*子どもたちは、わら小屋のむしろのところで布団をかぶってふるえてた。

ナレーター（奥代）：あの生き埋めになった人の「助けて」という泣き声と、モワーッとした壁土のほこりとおい、あれは今でも生き残りたいとができる。あれを聞いたと何とも言えんね。

ナレーター（敏枝）：ただ、最初は「助けて、助けて」って言ってても、何回



# 筋交いのはいった家



むかしのいえ

3) 遠所で 1軒だけ、地震で倒れなくて無事だった家がありました。なぜ、その家だけ倒れなくて無事だったのでしょうか。

# 生活を建てなおす

後かたづけ  
親せきも被災者  
水と食べ物  
みんなでご飯  
お風呂



# わたしたちとお客様の感想



最後に絵をしながら合唱



お客様(右下が被災者の敏枝さん・美代さん)

## 1 聞いた話を実際に演じてみて感じたこと

昔の人はおたりいい助け合っていいなと思いました。二、三もんどうも近い人の人が生きてもいいれていたし。助け人のときも当番からしたら、ごほんを家族みんなでや、いいいいなと思いました。今は、みんなでか自分の意見を主張して、助け合うことがあまりでかい人も出てくると思います。人を思いやれる人が増えてほしいなと思いました。

## 1 聞いた話を実際に演じてみて感じたこと

実際に演じてみて本当にこれなことがあたなんて思うと、よくてよくてでもこの大きさとこわさをみんなに知らせてもらえておかなければです。この思いを知ればどういう備えをするかがわからましたと思います。

- ・連合町内会長「町内にある井戸の総点検を4月以降に行う」
- ・家族：家族防災会議の開催と防災ハンドブックの作成

## 今後の展開（このプランをきっかけに）

### 1) 単元構想図の提案

歴史災害の事例をもとに、災害発生後の時間展開のなかで災害を学ぶ仕組みを考える。

## 2) 防災行動の展開

大人の想像を超える、子どもたちの防災マインド・防災行動について事例を集めます。

### 3) 繼続的な実施

このプランがきっかけになり、安城市防災課・教育委員会が市のプロジェクトとして来年度以降も継続していく意向。